

議会だより とくのしま



第 186 号
平成 29 年 2 月 1 日

発行：徳之島町議会 編集：議会広報編集委員会 〒 891-7192 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 7203
TEL 0997 (82) 11111 FAX 0997 (82) 1101



消防団出初式 (1月5日))

第 4 回定例会

12月6日～9日

- | | |
|----------------------|----|
| ☆ 審議された案件と議決結果、議会の動き | 8 |
| ☆ 一般質問 (7 氏登壇) | 9 |
| ☆ 研修レポート・編集後記 | 14 |

12 月定例会で審議された案件と議決結果

案 件	議決結果
(議案)	
・ 徳之島町誌編纂審議会条例の制定	原 案 可 決
・ 徳之島町報酬及び費用弁償条例の一部を改正する条例	原 案 可 決
・ 職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例	原 案 可 決
・ 徳之島町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	原 案 可 決
・ 徳之島町財政調整基金条例の一部を改正する条例	原 案 可 決
・ 徳之島町給水条例の一部を改正する条例	原 案 可 決
・ 過疎地域自立促進市町村計画の一部変更	可 決
・ 総合整備計画の一部変更	可 決
・ 徳之島町文化会館の指定管理者の指定	可 決
・ 徳之島町体育センターの指定管理者の指定	可 決
・ 徳之島町立図書館の指定管理者の指定	可 決
・ 教育委員会委員の任命	同 意
・ 平成 28 年度一般会計補正予算 (第 6 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度簡易水道事業特別会計補正予算 (第 3 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度国民健康保険事業特別会計補正予算 (第 4 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度農業集落排水事業特別会計補正予算 (第 3 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度介護保険事業特別会計補正予算 (第 3 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度公共下水道事業特別会計補正予算 (第 4 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度地域包括支援センター事業特別会計補正予算 (第 2 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度後期高齢者医療特別会計補正予算 (第 2 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度水道事業会計補正予算 (第 3 号)	原 案 可 決
(発議)	
・ 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書	原 案 可 決

10 月臨時会で審議された案件と議決結果

案 件	議決結果
(議案)	
・ 平成 28 年度一般会計補正予算 (第 5 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度国民健康保険事業特別会計補正予算 (第 3 号)	原 案 可 決
・ 平成 28 年度公共下水道事業特別会計補正予算 (第 3 号)	原 案 可 決



9 日	町村議会議長全国大会 (東京都)	11 月	27 日	常任委員長研修会 (鹿児島市)	12 月	1 日	事務局長・職員研修会 (奄美市)
8 日	離島議長全国大会 (東京都)	3 日	第 37 回徳之島町文化祭	20 日	営農技術・経営研修会 (天城町)	2 日	議会運営委員会 (奄美市)
6 日	関西徳州会定期総会及び大運動会 (尼崎市)	5 日	所管事務調査 (京都市)	19 日	第 3 回議会だより編集委員会	6 日	第 4 回定例会開会
5 日	第 2 回議会だより編集委員会	3 日	関西徳州会定期総会	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	9 日	第 4 回定例会閉会
4 日	三力町議会議員連絡協議会役員会	11 月	第 1 回議会だより編集委員会	10 日	全運動出発式	10 日	全国交通事故防止運動出発式
5 日	第 2 回議会だより編集委員会	8 日	議会広報研修会 (鹿児島市)	12 日	平成 28 年全国地域安全運動出発式	11 日	議会運営委員会
6 日	議会広報研修会 (鹿児島市)	10 日	徳之島航空航路対策協議会	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	16 日	離島議長行政調査 (沖縄県)
8 日	徳之島航空航路対策協議会	12 日	平成 28 年全国地域安全運動出発式	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	17 日	現地視察 (沖縄県)
10 日	平成 28 年全国地域安全運動出発式	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	18 日	三力町議会議員奉仕作業 (ヘリポート周辺)
12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	21 日	戦没者慰霊祭及び懇親会
10 日	平成 28 年全国地域安全運動出発式	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	22 日	東天城地区戦没者慰合同慰霊祭
8 日	徳之島航空航路対策協議会	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	24 日	議会報告会
10 日	平成 28 年全国地域安全運動出発式	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	28 日	奄美群島広域事務組合議会定例会及び市町村議会議長会
12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)	12 日	三力町議会議員奉仕作業 (伊仙町瀬田海)		

いっばん質問

12月定例会には、7人の議員が登壇し、文化伝承、福祉政策、観光振興、北部振興、安全対策、農業振興、行財政運営など町政全般にわたり執行部の考えをただしました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。

島ぐちイカシカ サーマイカイ

富田 良一 議員



島ぐち議会を
披露しては

答 高岡町長
議会は標準語の開催

問 島ぐちの伝承イカシカサーマイカイ(どうか)が、我が町でも簡単なあいさつ程度は、議会または役場でも使ってみてはどうか。他にも良い案があれば伺いたい。

しかできないと考える。もし、議会の皆さんが理解していただけるなら、2月の島ぐち大会において島ぐち議会を開催してみてもどうか。

大島地区方言マップ(かぞく編)

祖父 (奄美大島) フシ、ジュー、フッシュ、ジウ、オッシュ、ジウ (喜界島) アジ (徳之島) ジー、フーアジャ、ジジイ、フッシュウ (沖永良部島) ジャーザ (与論島) ヲフ	祖母 (奄美大島) ホンマ、アンマ、ハンネ (喜界島) アンマ (徳之島) アン、フーアマ、アンニエ、ハンシャリ (沖永良部島) ジャ (与論島) パーバー
父 (奄美大島) ジュー、チャン、アジャ (喜界島) オト (徳之島) アジャ (沖永良部島) アチャ (与論島) アンマ	母 (奄美大島) アンマ、オクカン、アシェ、ウツカ、オツカ (喜界島) オクカン (徳之島) ア (沖永良部島) アマ、オカン (与論島) アンマ
兄 (奄美大島) ニー、アニコ、ニー、サンマエ、ニエー、アニコ、イビ (喜界島) ニエー (徳之島) ミイ、ムイ、ムイ (沖永良部島) ミ (与論島) ヤカ	姉 (奄美大島) アセ、ネー、アゴー、ウエツガ、アネイ、アネク、ウナリ、ネエー (喜界島) ネエー (徳之島) アカ、アカ (沖永良部島) アヤ、オソネ (与論島) アンニョー

島ぐち啓発マップ

庁舎内は 検討課題に

答 岡元総務課長
庁舎内においては、

毎日さまざまな方が来庁されるので、全ての方々に島ぐちであいさつをしてよいものかどうか、課長会等で検討したい。

住民啓発の徹底を

是枝 孝太郎 議員



医療・福祉
条例改正を

問 安心して子どもを産み育てられる環境の保持を行う上で、患者(国指定の難病を含む)やその家族の経済負担を軽減するためにも条例改正できないか伺う。

答 国立公園指定・世界自然遺産登録に向けての今後のスケジュールと課題、具体的な取り組みについて伺う。

登録目標は
平成30年夏

答 住田企画課長
国立公園指定は平成29年春で、自然遺産登録目標は平成30年夏。

課題は、希少動物の車両事故や希少植物の盗掘など。対策として、減速帯設置や関係団体と連携した違法採掘・採取パトロールを実施する。

十分に検討し
改正したい

答 豊島介護福祉課長
国指定の難病が拡大されたことから、27年の9月議会においても、議員より提案があった。十分に検討を行い、3月定例会議会において、条例改正ができればと考えている。

定例会の様子をインターネットで
ご覧いただけます。
町のホームページから「議会中継」にアクセスしてください。
詳しくは議会事務局までお問い合わせください。
☎ 82-1111 (内線 331 番)

(前ページからの続き)

学校教育における ICT の充実を

問 学校における教育課程・教育外活動の中で ICT を活用したプログラミングシステムの充実と指導員の育成・人数確保の見通しは。また、* N I E の教育展開について伺う。

※ N I E とは、新聞を教材として活用する教育のこと。



ICT 教育の様子

学士村塾で ICT 教育

答 向井学校教育課長 前臨時議会後、プログラミング教材を導入した。

今後、学士村塾や希望する学校での活用を推進していきたい。また、ICT 支援員配置も考える必要がある。各学校で必要に応じ新聞を教材としており、これからも推進していきたい。

観光地・観光客対策を

幸 千恵子 議員



問 金見海岸へ安全に降りられるよう道路を

整備できないか。母間の線刻画群周辺を定期的に整備し、ロマンを語れる観光場所に。宿泊施設用に空き家を活用し観光滞在者が利用できる対策は。また、学芸員の配置予定は。



観光地として期待される鬼の足跡岩

調査しながら進めたい

答 幸田地域営業課長 民有地も含まれるので調査しながら進めていきたい。

母間の線刻画周辺は、社会教育課からの委譲で 28 年から地域営業課で管理することとなった。持続的なものとなるよう整備していきたい。

空き家バンクを構築

答 住田企画課長 宿泊施設への空き家活用のため、現在、空き家バンク制度構築に向けて準備を進めているところである。

平成 29 年度に配置

答 岡元総務課長 学芸員は、平成 29 年度に郷土資料館へ配置予定である。

調査から 2 週間後の「却下」は冷たい

問 84 歳の独居の高齢者が入院。退院後 1 週間でも宅配給食を利用したいと申請したが、調査から 2 週間後に「却下」という通知が届いた。この対応は冷たい。結果を出すまでの期間短縮と、責任重大な調査は複数体制にすべき。

複数体制で審査

答 豊島介護福祉課長 地域ケア会議にて各施設のケアマネージャー、社会福祉協議会担当者等複数で審査し、決定している。電話で本人に事前連絡を行い、郵送で決定通知を出している。

複数で訪問する事例は、認知症による支援を行う場合や精神疾患、アルコール依存症、高齢者虐待の場合などを想定している。

TMR会計検査院 から指導

問 TMRで製造された飼料の販売先と一般

農家への販売価格は。法人メンバーの生産牛飼養頭数は。今年10月に会計検査院から指導されているが、町は指導を行っているか。毎年約600万円の補助はいつまでか。

平成30年まで助成

答 東農林水産課長

販売先は構成員と畜産農家で、価格は構成員が1キロ当たり10円安くなっている。法人メンバーの飼養頭数は昨年度1053頭。TMRセンターへ、月ごとの製造量や販売の確認および管理指導を行っている。運営補助金は平成30年度まで。

「その他の質問」

- ドクターヘリ運航について
- 子育て支援について
- 乳幼児医療費の無料化について

地域福祉の向上を

松田 太志 議員



問 地域支援事業を早くから始めサロンなどを活用している地区がある

なか、さらなる充実を進めるため、今後の地域包括の方向性は。また、相次ぐ高齢者事故を受け、高齢者の生活を行政はどのように支援していけるのか伺う。

高齢者の生活支援

答 豊島介護福祉課長

医療介護、地域の支え合い活動を積極的に勧め、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるまちづくりを今後も推進する。75歳以上の方にバスの

無料チケットを配布。運行していない地区の方は、乗り合いタクシーの料金助成など検討する必要がある。

関係団体と連携を

答 高岡町長

高齢者の免許返納は、元気な高齢者という観点から行動範囲が狭くなるが、安全面から徳之島自動車学校で行われる高齢者講習で免許更新が適正なのかどうかをしっかりと把握すること



高齢者も元気な地域サロン

も大事である。関係機関とも連携を深める必要がある。

北部振興の現況は

問 「地方創生先行型事業」で実施された花

徳下田川河口の土砂撤去。波により砂が押し戻され、11月20日の豪雨で川があふれてしまった。今後の整備予定は。

今後、県で対応

答 瀬川花徳支所長

地方創生事業の一つとして、ふるさと環境再生事業で、昔ながらの環境を再生し、自然と人との共存を目指すために、花徳浜の堆積した砂を押し戻す作業を行った。今後、下田川河川の土砂は、県の管轄で対応してもらおうこととなった。

畜産農家の

所得向上を

問 町が行っている受精卵事業の進行状況は。

また、町内にいる繁殖雌牛を使用して受精卵を提供し、畜産農家の所得向上のため高能力の繁殖牛を普及することはできないか。

約60%の受胎率を確保

答 東農林水産課長

平成27年度から試験的に受精卵移植を実施し、27年度実績は、約60%の受胎率を確保。

町内の能力の高い母牛から採卵することは可能であり、今後も優良繁殖牛の確保・改良を目指して畜産振興を図っていききたい。

「その他の質問」

○美農里館について

行政の中長期計画は

木原 良治 議員



給食センター 建設と

問 岡元総務課長
防災拠点施設は、給食センターに併設か近傍が望ましい。災害時には、複数の自衛隊ヘリなどが離着陸でき、負傷者の搬送や救済物資の集積ができる場所。また、将来の雨天練習場など、避難所となる施設が近くにあると最適である。

答 学校給食センター移転計画と防災拠点施設の整備計画を伺う。また、食品加工センター美農里館機能強化には生産量拡大に向けた戦略として、新たな一次加工センターの建設が不可欠ではないか。



商品開発中の様子 (みのり館)

平成33年 竣工予定

答 向井学校教育課長
防災拠点施設の機能を備えた給食センターを建設し、平成33年4月給食開始を計画している。

現在、建設推進協議会を立ち上げ、協議を行っているところである。

大手メーカーと 連携

答 高岡町長
みのり館は現在、大手食品メーカー・百貨店などからの受注量に生産が間に合わない状況にある。大手食品メーカーにおいて

は、みのり館の生産量に合わせた注文をいただいております。今後は、協議の下で加工センターの建設が必要になると考えられる。

補助金の評価と 見直しは

問 平成26年度の補助金支出は、266件

1億2500万円。継続的支出補助金は年々増加し財政を圧迫している。補助金の目的・必要性・公共性・優先順位等を再評価し、今後見直しも含め判断し、検討されるべきと考えるがどうか。

評価委員会の 諮問も尊重

答 岡元総務課長
町内各種団体への継続的補助金は、年々増大。補助金の適正化は改めて見極めが必要だと考える。事業が現在も助成すべきものか補助金評価委員会の意見やスクラップ&ビルドの観点から※サンセット方式の活用も検討する時期にある。

※スクラップ&ビルドとは、老朽化して非効率な設備等を廃止し、新しい設備に置き換えることで効率化を実現すること。

※サンセット方式とは、予算や事業、行政組織の肥大化を抑えるため予算・事業などに期限を設ける方式。

枯れ松の撤去を早急に

勇元 勝雄 議員



予算の範囲内で 実施

答 東農林水産課長
町管理の道路沿線や民家への倒木被害が懸念される箇所などの枯れ松の撤去は、県単事業の里山林総合対策事業や町単独事業により、今後も予算の範囲内で実施していきたい。

問 町管理の道路沿いには、たくさん枯れ松が見られる。通行人の安全のため、事故が起きる前に年次的に計画を立て伐採を行い撤去すべきではないか。今後どのような対策を考えているか伺う。



倒木が懸念される枯れ松

シルバーに 仕事を

問 去年までシルバー人材センターがしていた仕事を民間に変更したのにはなぜか。シルバーの人は仕事が減って困っている。町長は理事長でもあるので、町はもっとシルバー人材センターに仕事をさせるべきではないか。

答 高岡町長
観光地等の整備は、安全面などを考慮し変更した。現在、海岸清掃等の事業をシルバー人材センターで推進している。この事業は分け隔てなくできる事業の一つで、今後もこの事業を取り入れていきたい。

乳幼児医療費の 無料化

問 今回で5回目の質問になるが、徳之島の経済状況を考えると、もつ

と若者のために予算を使わなければならないと思う。乳幼児医療費の助成は県下43市町村で、下から一、二位を争っている。若者の子育て支援として無料化はできないか伺う。

教育に 力を入れない

答 高岡町長
乳幼児医療費は、生活保護世帯・非課税世帯が無料。無料化により所得の高い世帯が優遇される。統計上、無料化により特殊出生率・過疎化が改善したといふことはない。教育再生等による子育て支援を重点政策と考え、子どもたちの教育にこそ予算を使いたい。

「その他の質問」
○尾母へき地保育所の整備について
○丹向川・案川・宝川の護岸の整備について
○JALの配当金、ふるさと納税の使い道について
○花徳下田川の河口改修について

認知症の理解を

宮之原 順子 議員



問 地域サロンが活発に行われているが、男性がもつと集まりやすいよう工夫できないか。認知症の方・介護者の集える認知症カフェの開催を増やせないか。また、子どもたちにも学校教育の中で認知症教育はできないか。

答 豊島介護福祉課長
地域サロンへの出席の呼び掛けや、男性が出席しやすい環境づくりに取り組む。
認知症カフェは昨年度1回開催し、参加者の方に大

気軽に 参加できる場を

問 2018年放送予定の大河ドラマ「西郷どん」。西郷さんゆかりの地に新たな看板の設置や既存の看板をリニューアルできないか。「西郷どん」を活用すれば、徳之島を売り

答 幸田地域営業課長
大河ドラマ「西郷どん」の放送に向け、観光PRのため西郷さんゆかりの地に新たな看板設置や看板のリニューアルを現在計画中である。

変好評だった。今年度も2回計画しており、認知症の方、ご家族、関係者が気軽に参加し、介護について語り合える場になればと思う。

人権教育の充実

答 向井学校教育課長
認知症教育は、今後人権教育や総合的な学習の中で取り扱い、啓発していきたい。

島を売り出す チャンス

問 観光PR計画
出ず大きなチャンスだと思

答 幸田地域営業課長
大河ドラマ「西郷どん」の放送に向け、観光PRのため西郷さんゆかりの地に新たな看板設置や看板のリニューアルを現在計画中である。



西郷さんゆかりの地にある看板

あなたのご意見をお寄せください

議会に対する質問や意見、または議会だよりに対する意見や希望がございましたら、議会事務局までご連絡ください。

徳之島町議会事務局
☎82-1111 (内線331番)

議員研修レポート

10月27日に鹿児島市で常任委員長研修会が行われました。その内容を各常任委員長がレポートします。

総務文教厚生委員長 木原 良治

「漂流する地方議会かごしま」について

講師：南日本新聞編集報道部 記者 浦井原 健氏

「議員定数の削減」に 会場も空席が目立ち参加者から「住民との接点のなさが表れている」と厳しい声があがった。

地方自治体の行財政改革が進む中で当然の流れと指摘。
「議員1人1人が能力を身につければ、人数は減っても行政の監視機能は保てる」

一方「議員を減らしすぎて議会活動が鈍った」と2008年の改選で議員定数を18から10に減らした瀬戸内町議会でこんな後悔の声が漏れている。

「出前議会」について
議会報告会はいずれの

「出前議会」について

政策立案の能力がない



常任委員長研修会の様子

と当局の誤りを見抜けず追認機関を脱せられないと指摘。各議会は住民の負託の重さを受け止め政策立案機能強化をはじめとする議会改革に真剣に取り組む必要がある。ちなみに本町議会は、本年4月1日に徳之島町議会基本条例を制定し、去る11月24、25、26日、議会報告会を3会場で開催した。住民の参加者は合計46名であった。各会場での貴重なご意見は今後定例会等で町政に反映出来るよう努めなければならない。また、議員も住民から監視チェックされる立場である事を再確認する必要があり、各議員、各々の考え方を町民は知ることがしている。

暮らしの視点からの「地方創生」

講師：一般社団法人トクノスクール

・農村研究所理事長 徳野 貞雄氏

講師の徳野貞雄氏は1949年大阪府貝塚生まれ。現在、熊本大学名誉教授。知識社会的な視点からの既存の農学・農村社会学を批判的に捉え、農民「生活・暮らし」の視点に立った農業論や地域社会論を展開する。「道の駅」の発案・命名者。2015年に一般社団法人トクノスクール・研究所を立ち上げ、理事長を務める。

徳野氏は講義の冒頭、現在、伊仙町で取り組み調査研究する特殊出生率に触れ、離島で過疎の島だが全国1位2・81は非常に高い。高出生率の背景には、南西諸島における高出生率を育む生活構造について、具体的に地域社会のモデルと

して隣の沖永良部和泊町を事例紹介。沖永良部は離島で過疎地。所得は東京(439万)の約半分(198万)しかないが、合計特殊出生率は、東京1・0以下に比べ2・4もある。「消滅可能性自治体」にも入っていない。18歳で都市部に就職した子供の約35%がUターンする。「クラウンは走っていないが、軽トラでコンビニにも行く。」「子供は、自分一人で育てるのではなく、地域の人も育ててくれる。」所得は低いが、非常に生活しやすい生活構造が非常に安定している島である。

★集落再生 「地方創生」への疑問と過疎農山村の現在

人口減少問題が、「地

- 方創生」戦略の下、国自治体、マスコミを巻き込んで動き始めた。しかし、その動きに非常に強い懸念を感じている。それは、人口と経済活動の「選択と集中」による政策が農山村不要論に繋がる恐れがあるからである。「地方創生」で色々やってみたがやはりダメだった。だから、地方中核都市だけでも残そうという農山村切り捨て論的シナリオになりかねない。
- ①「基本的なコンテンツ」
①人口減少は、確実に進む。だからといって「人口減少は、悪いことではない」。日本は、明治以降、人口を3・8倍に爆発的に増加させている。問題は、人口推移の現象と人口減少問題を混同し、「悪いこと」ときめつけてしまっている。
- ②日本の人口ピラミッド
- ③「完結児童出生数」では、一般の夫婦は8割が2人以上の子供を生んでいる。よって、将来の日本の社会基盤である家族・世帯の基礎構造は、再生産され確保できる。ただ、総人口は減少する。日本の人口推移は、正常に移行している。
- ④「地方創生」の基礎データとなった増田レポートの統計予測は、非常にずさんなデータである。15歳から22歳は、現在は生産年齢人口ではない。65歳から75歳は昔の「老人」ではない。プレミアム世代ともいえる歴史上初めて登場してきた「歳のいった新人類」である。増田レポートは、このような質的变化を全く考慮せず、ただ外形的な数字の変化を軸に、人口減少の危機感を煽っている。
- ⑤「生産年齢人口比」はピークアウトせず維持される。増田レポートで危惧されている生産年齢人口の比率は、プレミアム世代を、新たな生産年齢人口に加えることによって、65%台は維持できる。
- ⑥過疎農山村の生活課題の認識は、増田レポート的な「人口危機論」と、我々の「人口減少変容論」では、大きく異なったアプローチである。例えば、「公共交通機関の問題」について、「危機論」ではバスや鉄道の維持存続を課題として捉えるが、解決策は見出せない。「変容論」では、「自家用車」を公共交通機関として捉える。すると、農山村は交通が不便な場所ではなくなる。
- ⑦「家族の縮小化」については、「危機論」では家族と世帯と混同し、世帯の分離・分散を「家族の解体」として捉えるが、「変容論」では、他出している子供の世帯は3分の2が車で1時間内に居住し、実家と頻繁に相互サポートを行う「現代的な修正拡大家族」を形成している。
- ⑧同様に、集落の在り方も変化し、「危機論」では「限界集落化」が進んだ集落も、「変容論」では、新たなマチとムラの入りこみ型の地域社会を形成しつつある。

第1回議会報告会を開催しました

昨年11月24日、26日にかけて町内3会場で議会報告会を開催しました。

24日は花徳前川生活館、25日は井之川公民館、26日は亀津生涯学習センターであり、福岡議長の「議会の使命と責任は、町民福祉の向上と町政発展に寄する」というあいさつに始まりました。それぞれ地元選出の議員が司会、現状報告を行ったほか、行沢弘栄議員が平成28年に開催された議会の主要事項説明を行いました。

当日は、ご多忙中にもかかわらず足を運んでいただき議員一同感謝申し上げます。皆様からいただきました貴重なご意見・要望等を今後の議会活動に反映させていきたいと思っております。

29年度も開催を予定しておりますので皆様の参加をお待ち申し上げます。



花徳前川生活館での議会報告会

所管事務調査レポート

経済建設常任委員

是枝 孝太郎

2016年11月4日、

5日、6日、議員13名による所管事務調査を愛媛県今治市大手食品メーカーや京都市において、

今後の事業展望について
研究と修養を議会の視点から行った。

大手食品メーカーにおける事業展開は、日本では、47都道府県に本社ははじめ工場、支社、支店



大手食品メーカーでの視察研修

物流センターがあり、地域に根ざした地場産の農水産物を加工食品として消費者のニーズにあった食の追及を行っている。世界では、アジアの香港、中国、ヨーロッパのイギリス、北米のアメリカなど二十の地域や国において事業を行っており地域にあった食文化の食品開発販売を行っている。

大手食品メーカーの理念は「食卓を変える 食のバイオニア、挑戦・進化を続け食の新たな価値を創造」。この言葉は、強く心に響き感じました。衛生活に基づく技術指導、各種食品加工機械の技術指導、地域食材を有効活用した特産品開発指導技術を美農里館全体として将来にわたって確実に実践してゆけるのか、また、企画、研究、開発、製造、販売一つ一つをクリアし



関西徳州会大運動会（東天城連合の皆さんと）

てゆくことが大事である。企画から販売まで責任をもつて行う一貫した組織体制作りが、今後6次産業化を発展させ、徳之島としての特産物のブランド化が一步一歩進んでゆくのではないだろうか。島外消費者、世界自然遺産における観光客などが良質で安心・安全

を実感できるときに成功への道が開けるのではないだろうか。

次に、世界自然遺産に向けての徳之島としての対応と組織作りについての研究と修養に勤めた。関西における世界文化遺産は多く、各箇所の体制の在り方と施設整備について観察研究した上で、ポ

ランティア体制と遺産ガイドの組織作りが今後の課題であると感じた。

今後、徳之島全体として、徳之島町として真剣に自然保護を考えなければならず、そのためにはある一定の財政確保も必要である。第66回関西徳州会定期総会並びに大運動会に6日に参加させていただき徳之島の現状について意見交換を行い「ふるさと納税」についてもお願いもしてきました。ふるさと県人会の人々には、暖かく対応していただき心から感謝申し上げます。

将来、素晴らしい徳之島を開拓するには、素晴らしい人々との出会いと素晴らしい徳之島町民の手で、今が大切な時。



屋内練習場（N T T 西日本淀総合運動場内）を視察

総務文教厚生委員

勇元 勝雄

今回の視察研修の目的である屋内練習場があるのは、京都府久御山町の N T T 西日本淀総合運動

場内で、運動場の全容は、400m の全天候型トラック、野球場、テニスコート、屋内練習場、研修室、トレーニングルーム、宿泊施設まで備え

た非常に立派な施設でした。その中でも屋内練習場とトレーニングルームを重点的に視察し、議員それぞれが認識を深めました。

屋内練習場は、縦48m・横幅30m・高さ10m以上の大きな鉄骨造りの建物で、中にはピッチングマウンドが3カ所あったほか、ピッチングマシン・

打撃コーナー、天井にはネット等、非常に設備が充実していました。

また、トレーニングルームは別棟で、食堂・研修室・宿泊施設が同じ建物の中に備わっていました。

視察を終えて感じたことは、このような施設を造る目的は、野球等のキャンプの誘致だけではなく、もつと多目的に普段から使える施設整備のためであっても良いのではないかとということです。同じような施設を徳之島に造るに当たっては、場所・予算・大きさ・維持管理の費用等さまざまなことを検討する検討委員会なるものを設置し、多くの意見を取り入れ、協議・検討を重ね、町民のために最小の投資で最大の効果を出せる施設ができることをのぞんでいます。

次回の定例会は3月です

みんなで議会の傍聴してみませんか。手続きは簡単で、傍聴席入口の受付名簿に住所、氏名を記入していただくだけです。詳しくは議会事務局までお問い合わせください。

☎ 82-1111 (内線331番)



議会傍聴の様子

編集後記

新年おめでとうございます。

12月議会は、例年同様に樟南第二高等学校の生徒が議会傍聴に来られていました。初めて見る議会をどのように感じたでしょうか。議会は町民にとって町政の政策決定に重要な役割を担っていることを少しでも理解していただけたでしょうか。

昨年からの選挙権年齢が引き下げられ、18歳から投票することができるようになりました。政治が身近な問題であると感じ、今後も多くの方に議会傍聴していただきたいと思っています。昨年は12月末現在でふるさと納税も、一昨年の183

件682万円から4,929件9,155万4千円に増えております。企画課、関係者の努力でこのような結果につながっているものと思います。本年もふるさと納税額の増加に期待して、私たち議員もPR活動を行っていかねばと思います。

世界自然遺産登録、北部振興、他にも課題はたくさんあります。議員として批判やチェックも大事ですが、政策提案型の、町民のための議会にしていかなければいけないと思います。本年も広報編集委員全員で読みやすい紙面づくりに努めてまいりますのでよろしくお願います。

文責 宮之原 順子